

昭和63年度の地質調査所の経常研究

企 画 室

Research Planning Office

II 経常研究

地質調査所では 所における研究課題の位置づけによって 経常研究を 所内指定研究 所内特別研究 一般経常研究に区分し 研究業務を推進している。

以下 昭和63年度経常研究の研究方針と 研究計画の概要を各研究グループごとに紹介する。

II.1 所内指定研究

所内指定研究は 地質調査所の共通基盤的研究のうち最重点課題ともいうべき研究である。昭和63年度も国土の開発・利用・保全等の基盤となる5万分の1地質図幅の作成を所内指定研究とし 強力に推進する。

II.1.1 特定地質図幅の研究

[方 針]

5万分の1地質図幅を作成する。特に活断層・リニアメント・悪地形等の顕著な地区及び社会的要請の強い地区から優先的に本研究を実施する。昭和63年度は第2次5カ年計画の4年目として 15図幅の地域において野外調査を行い 地震予知研究等に資する。

[計画の概要]

60年度から 新たに35図幅を5カ年計画で作成することとし 昭和63年度は15図幅の調査研究を行うとともに 62年度に野外調査を完了した9図幅について 地質図及び研究報告書を印刷する。

1. 印刷図幅

大沢 岡野町 高田西部 大町 御在所山 綾部
京都西北部 大社 津田

2. 野外調査実施図幅

鳥海山 登米 原町 長岡 中野 檜ヶ岳 谷汲
桑名 福知山 園部 明石 今市 広島 佐伯 尾
鈴山

II.1.2 地質図幅の研究

[方 針]

我が国の国土の開発・保全に関する基礎資料を提供するための詳細な地質図として また地質に関する国の基

本図として 5万分の1の地質図幅を作成・整備する。併せて 各地域の地質及び地質現象の解明により 日本の地質学の発展に寄与する。昭和63年度は17図幅の地域において野外調査研究を行う。

[計画の概要]

1. 野外調査完了図幅(1)

玉庭

2. 継続調査図幅(15)

恵比島 陸中関 薬菜山 飯豊山 荒砥 若松 川
俣 磐梯山 真壁 身延 美濃 洲本 折尾 豊岡
宮原

3. 新規継続調査研究図幅(1)

種子島南部

4. 63年度印刷・発行予定図幅(6)

糠内 黒石 石動 上高地 網野 佐世保

II.2 所内特別研究

工業技術院特別研究のシーズ等となる課題 社会的要請の大きな課題 その他 所として重点的に推進すべき課題を所内特別研究とする。63年度は以下の3テーマについて実施する。

II.2.1 岩石標準試料作製法の研究

[方 針]

我が国土を構成する基本的岩石を選択して これまでに確立した岩石の化学分析試料調製法によって分析試料を作製する。本分析試料を国内外の関連研究機関との国際共同研究により 各成分の分析値を求め 標準値(主成分・微量成分・超微量成分・同位体比・地質年代)を確立する。

[計画の概要]

1. 岩石鉱物標準試料の調製(原岩の採取と 化学分析用粉体試料の調製)

2. 粉碎困難な試料(チャート)の コンタミネーションの無い粉碎方法の検討

3. 国際共同分析の推進

4. 標準値の確立

なお 56~60年度に調製した「火成岩シリーズ」につ

いても引き続き国際共同分析を行い、分析値の確立を図る。

II. 2.2 地質 CAD の研究

[方 針]

ローカルエリア・ネットワークの環境のもとで、地質図を始めとする地理情報のためのワークステーションを開発する。また、地調ネットの構築についても研究する。

[計画の概要]

1. 地質情報処理ワークステーションの開発

スーパーミニコンを導入し、地理情報システムの作業環境を整える。既存の地理情報システムの再編成を図る。

2. 地質図インテリジェント 3D-CAD アルゴリズムの研究

地層と地形の間の幾何学的な関係から、立体の世界と平面の世界を関係づける機能を開発し、地理情報システムの上に地質図の CAD システムを開発する。

3. 地調ネットの研究

研究情報の分散処理のために、ワークステーション各種のサーバー類からなるネットワークを研究する。

II. 2.3 札幌周辺地域における地球科学基本図のパイロット研究

[方 針]

地質図幅等の既存データ、各種物探データ、深掘試験データ、航空写真・ランドサット画像の解析データ等を総合的に解析して地質構造発達史を解明し、その結果を国土の基本図として集大成する手法を研究する。

[計画の概要]

1. 地形と地質の相関解析

航空写真、ランドサット画像解析とグランド・トールズにより地形と地質の相関を解明し、地質構造発達史を編むための基礎資料とする。

2. 有用資源分布の法則性の研究

鉱物資源、化石燃料資源の分布図を作成し、地質構造発達史の中で有用資源分布の規則性を解明する。

3. 地質構造・有用資源の成因的研究と表記法のマニュアル作成

地質・物探データ等を総合的に解析して、新たな観点から地質構造発達史を解明するとともに、これを国土基本図として表現するための手法を検討する。

II. 3 一般経常研究

学界の動向と国及び社会の要請に留意しつつ、研究者の創造性を尊重して各分野の目的基礎研究、地域開発の基礎となる研究等を積極的に進める。その際、特に新たな研究開発のシーズの育成に留意する。

II. 3.1 地質編さんの研究

[方 針]

日本列島の地史・地質構造の研究等、国土の地質に関する総括的研究に基づいて、20万分の1及び50万分の1地質図幅や全国地質図等を編さん・発行し、またこれらの改訂を行う。

[計画の概要]

1. 20万分の1地質図幅の研究

- 1) 八戸(岩手・青森県)
- 2) 相川(新潟県)
- 3) 八丈島(東京都)
- 4) 巖原(再調査)(長崎県)
- 5) 飯田(改訂)(長野・岐阜県)

II. 3.2 層序構造地質の研究

[方 針]

地層の形成と変形過程、堆積盆地の発展と造構作用、化石による地層の分帯と年代決定に関する基礎的研究及びこれらを通じて日本列島とその周辺の地質・地史の総合的把握を目標とした研究を行う。

[計画の概要]

1. 変動帯堆積盆の形成史の研究

- 1) 珪藻質堆積物に関する古生物学的・堆積学的研究(山形・秋田県)

2. 島弧におけるテクトニクス研究

- 1) 付加過程に伴う造構変形史の解析(愛知県・京都府)
- 2) 西南日本弧と琉球弧の会合部における新生代のテクトニクス(山口県)

II. 3.3 岩石地質の研究

[方 針]

地質図幅類の精度向上等、その作成に大きく貢献するとともに、地質現象解明のための先行的・基礎的研究方法の開発を目指す。

その内容としては、グローバルな視点から、環太平洋西縁の場における日本列島の各地域・各時代の火成活動・変成作用を解明するとともに、場の特徴を把握する。

[計画の概要]

- 1. 島弧における火山岩類の研究
 - 1) 島弧会合部における鮮新世・更新世火山岩類の岩石学的検討（長野・新潟県）
- 2. 火成岩類及びマグマ型の研究
 - 1) 北上山地の深成岩類の岩石学的研究（岩手県）
 - 2) 南極セルロンダーネ山地の深成・変成岩類の研究
 - 3) 西南日本の新期火山岩類の変質に関する研究（大分県）

II. 3.4 地質標本の研究

[方 針]

日本の地質を解明する基礎資料として 日本（及び海外）の代表的な岩石・鉱物・化石の標本を収集し 適切な管理システムの開発により その有効利用を図る。また これらの標本の分類・標準に関する研究を行う。

[計画の概要]

- 1. 地質標本の収集と管理システムの開発に関する研究
 - 1) 電算機による地質標本管理システムの研究
 - 2) 本所関係標本データの整理
 - 3) 地質標本の収集（茨城・栃木・群馬・福島・千葉・新潟県）
- 2. 地質標本の分類・標準に関する研究
 - 1) 新生代貝化石群集の研究（福岡県）
 - 2) 新生代植物化石群集の研究（京都府）
 - 3) 鉱物標本目録作成に関する基礎的研究
 - 4) スカルン鉱床産珪酸塩鉱物の研究

II. 3.5 海洋地質の研究

[方 針]

西南日本の大陸縁辺域から沿岸陸域にかけての地質層序・構造の成因的関連性を明らかにするための基礎的研究 及び海洋地質データ総合化の研究を実施する。

[計画の概要]

- 1. 西南日本の海陸地質対比に関する研究（石川・富山・新潟県）
- 2. 海洋地質データの総合化研究
 - 1) 海底火山地域における音響層序対比に関する基礎的研究（小笠原海域）
 - 2) 海洋地質データの収集・解析

II. 3.6 海洋鉱物資源の研究

[方 針]

各種の海底鉱物資源の探査の基礎を確立し また成因を明らかにすることを目標として 基礎的な研究 情報

・資料の収集と解析を実施する。

[計画の概要]

- 1. 深海底鉱物資源の基礎的研究
 - 1) 海成マンガン鉱物に伴う微量元素分布特性の研究
 - 2) 海底新資源の基礎的研究（東京都）
- 2. 大陸棚鉱物資源の基礎的研究
 - 1) 海浜一浅海堆積物の堆積機構の研究（茨城・千葉県）
 - 2) 海底細骨材資源の情報収集

II. 3.7 海洋物理探査の研究

[方 針]

海底の地学現象に関する調査・研究を実施し 併せて調査技術の開発・研究を行う。

[計画の概要]

- 1. 海洋地球物理データの現場処理解析技術の研究
- 2. 深海底堆積物の磁化獲得機構の研究

II. 3.8 海洋底質の研究

[方 針]

沿岸水域における底質の堆積機構及び堆積環境評価に関する研究を行う。

[計画の概要]

- 1. 海洋底質の研究
 - 1) 湾央砂州の形成機構に関する研究（千葉県・東京都・神奈川県）

II. 3.9 水資源の研究

[方 針]

地下水の分布や挙動を 自然の流動形態や人為作用による変化の両側面からとらえ 水資源等に関する各方面の問題に対処するための基礎資料とする。

[計画の概要]

- 1. 水文地質及び水文地図の研究
 - 1) 中生代火山岩・緑色岩地帯の地下水流出解析手法の研究（岡山県）
- 2. 水文環境の研究
 - 1) 表層細粒質洪積台地の降水による垂直涵養機構の研究（茨城県）
 - 2) 地下水位・水質の通年観測（兵庫県）

II. 3.10 環境地質の研究

[方 針]

自然災害・環境変化等発生の予測技術の向上に資するため 地質構成の精密かつ総合的な把握に基づき 地表

変動に関する諸現象の地質的要因を究明する。

[計画の概要]

1. 地質災害の研究

- 1) 深成岩地帯における地すべり崩壊地帯の研究 (茨城県)
- 2) 斜面における地質過程に関する研究 (長野県)
- 3) 火山災害と噴火様式に関する研究 (東京都)

2. 平野地盤地質の研究

- 1) 臨海平野地盤地質の研究 (千葉県・東京都・埼玉県)

II. 3.11 地震地質の研究

[方 針]

活断層・地震断層など地殻活構造の調査研究を行い、地震との関連性を追求する。また地震活動と関連した諸現象の検出方法の開発を図る。

[計画の概要]

1. 活断層と古地震の研究 (滋賀・秋田県)
2. 第四紀における造構運動の変遷の基礎的研究 (奈良県)
3. 広域火山灰の研究 (愛媛・大分県)

II. 3.12 地震物性の研究

[方 針]

地震予知等の特別研究の基盤として、またそれらと関連しつつ地殻及びマントルにおける各種構造運動、特に地震活動の実態把握のための基礎研究を行う。

[計画の概要]

1. 地震物性の基礎的研究

- 1) 微小地震の震源過程に関する研究 (静岡県・東京都)
 - 2) 人工地震動の観測及び解析の研究 (静岡県・熊本県)
 - 3) 非爆薬振源による地震波速度連続観測法の研究
2. 放射性廃棄物処分のための岩石バリアの研究

II. 3.13 環境化学の研究

[方 針]

地球化学的手法による環境に関する研究を行う。さし当っては地下水・地下ガスの係わる諸現象の解明に主眼を置き、地震予知研究の一環としての観測強化地域等における観測研究及び地下水の存在状態・流動・水質変化並びに水質汚染の実態を動的に把握するための研究を行う。

[計画の概要]

1. 地下水位 水質等による環境化学の研究

1988年6月号

- 1) 東海・伊豆地域の地下水位・水質・ラドン等による地震予知のための観測研究 (静岡県)

- 2) 宮城県東部地域の地下水の観測研究 (宮城県)
- 3) 離島等における地下水の地球化学的研究 (愛媛・静岡県・東京都)
- 4) 水質汚染の研究 (栃木・群馬・埼玉県)

2. 地下ガスの化学成分の研究

- 1) 断層破砕帯における水素ガスの挙動に関する研究 (茨城県)
- 2) ヘリウム同位体の研究
- 3) 岩石破壊過程における放出ガス成分と応力に関する研究

II. 3.14 地殻熱資源の研究

[方 針]

地殻熱資源評価技術の進歩を目指して地質学的・地球化学的方法によって地殻熱資源分布及び地熱生成機構に関する基礎的研究を行う。

[計画の概要]

1. 地殻熱資源分布の研究

- 1) 侵食されたカルデラの地熱地質学的研究 (秋田県)
- 2) 奥会津地域地熱地質 (福島県)
- 3) 離島地域熱水系の地球化学的研究 (東京都)

2. 地熱生成機構の研究

- 1) 地熱系における熱水流動に伴う変質の研究 (秋田県)
- 2) 流体包有物による熱水通路形成に関する基礎的研究
- 3) 熱水系の化学的モデルの研究

II. 3.15 地殻熱探査の研究

[方 針]

地熱資源探査法の研究としてリモートセンシングデータの効率的利用法に関する研究、熱構造把握と物理モデル化研究並びにカルデラ規模火山岩系の研究を行う。

[計画の概要]

1. 遠隔探知技術の地熱探査への利用 高度化研究
2. 熱水流動及び熱構造の研究 (北海道・岩手・秋田・山形・福島県)
3. 地熱探査におけるカルデラ規模火山岩系の研究 (青森・栃木・群馬県)

II. 3.15 地殻熱物性の研究

[方 針]

地熱環境下における岩石・地層等の性状の解明に関する研究 及び地熱流体の貯留構造に関する構造地質学並びに地球化学的研究を行う。

[計画の概要]

1. 地熱地域の岩石の性状の研究
 - 1) 天然及び人工熱水貯留層の岩石物性の研究
 - 2) 地熱貯留層・熱源の中深度構造に関する地球物理学的研究(秋田・岩手・山形県)
 - 3) 地熱環境下におけるカップルドプロセスの研究(東京都)
2. 地熱流体貯留構造の研究
 - 1) 断裂構造と貯留構造の研究(静岡県)
 - 2) 坑井内における地層比抵抗の研究(秋田・岩手県)

II. 3.17 鉍物資源の研究

[方針]

鉍床分布の規則性 鉍床生成区に関する基礎的研究並びに資源評価に関する研究を行う。

[計画の概要]

1. 鉍床生成区に関する研究
 - 1) 陶石鉍床区の研究
 - 2) 関東・東北地域のベントナイト粘土鉍床の研究
 - 3) 北関東地域の粘土鉍床の研究
2. 鉍物資源分布に関する基礎的研究
 - 1) 東北アジアの非鉄金属資源
 - 2) 鉍物資源インベントリ
 - 3) 金鉍床分布に関する基礎的研究
 - 4) レアメタル資源の評価に関する研究
3. 北関東地域の鉍物資源の研究

II. 3.18 鉍床探査の研究

[方針]

鉍床及びその母岩に関して 野外での調査研究を基幹に形成の場と形成機構を解明 鉍床探査の理論と手法の確立に資する。

[計画の概要]

1. 潜頭鉍床の探査手法の研究
 - 1) 地質構造解析(茨城・栃木・福島県)
 - 2) 貫入花崗岩体解析(岐阜・山梨県)
 - 3) 鉍化・変質帯解析(福井・島根県)
 - 4) 微量元素の地球化学的解析(京都府)
2. 鉍床形成と地域特性の研究
 - 1) 黒鉍床の地質構造規制(秋田・岩手・山形県)

II. 3.19 鉍床の研究

[方針]

鉍床構成物質の起源と移動・濃集過程の解明 鉍化溶液の起源と性質の解明 さらに鉍床形成に及ぼす地質学的要因の解明等 鉍床の成因に関する基礎的な研究を行う。

[計画の概要]

1. 鉍床成因に関する実験的研究
 - 1) 合成含水マグマ中の酸素・硫黄ガス分圧制御に関する実験的研究
 - 2) 鉍物と熱水溶液間の元素の分配に関する実験的研究
2. 同位体による鉍床成因の研究
 - 1) 熱水鉍化作用の研究(青森・秋田・鹿児島)
 - 2) 安定同位体による岩石・鉍物の研究
 - 3) 同位体実験法の改良と開発

II. 3.20 鉍物の研究

[方針]

鉍物特に鉍床構成鉍物の物理的・化学的諸特性の解明 それに関連する研究手法の開発を行う。 鉍物の結晶化学的研究 鉍物の記載的研究の2項目を中心に 関連テーマも適宜検討対象とする。

[計画の概要]

1. 鉍物の結晶化学的研究
 - 1) 含塩素ガーネット様鉍物の結晶化学
 - 2) 高温型水晶の内部構造
 - 3) 鉍物中における希少金属の存在状態
 - 4) Fe-Ni スピネルの陽イオン分布
2. 鉍物の記載的研究
 - 1) 豊羽鉍床における新産鉍物の記載
 - 2) レアメタル漂砂鉍床に伴う鉍物種の記載
 - 3) 粘土鉍物標準試料の作成と記載-III

II. 3.21 石炭地質の研究

[方針]

諸炭田の石炭の物理・化学的特性の調査研究を行い、地質学的諸条件とも併せて 炭田生成機構を解明し 炭田探査技術の開発を図る。

[計画の概要]

1. 石炭組織成分及び根源有機物の物理・化学的性質の研究
 - 1) 炭田堆積盆内における炭質特性の変化に関する石炭岩石学的研究
 - 2) 石炭組織成分及び根源有機物の物理・化学的性質と分類基準に関する研究
2. 根源有機物のタイプと炭化水素生成条件の相互関係の研究

- 1) 未熟成ないし熟成領域
- 2) 高熟成領域

II. 3. 22 石油地質の研究

[方 針]

我が国周辺の代表的な含油・ガス堆積盆の諸特性を体系的に研究し、石油・天然ガスの探鉱開発に資するとともに、堆積盆解析技術の開発及び広域資源評価の基礎の確立を図る。

[計画の概要]

1. 堆積盆解析技術の研究
 - 1) 堆積盆形成機構の研究 (新潟・千葉県)
 - 2) 石油・天然ガスの移動・集積過程の研究 (秋田県)
 - 3) 層位トラップの堆積学的研究 (新潟県)
 - 4) 地球化学的手法による古環境の研究 (新潟県)
2. 広域堆積盆の研究
 - 1) 日本列島周辺の堆積盆岩層分布に関する研究 (秋田・新潟県)
 - 2) 東アジア地域の堆積盆層厚分布に関する研究

II. 3. 23 物理探査の研究

[方 針]

既存の地球物理的手法の発展を図り、国土の保全及び地下資源開発上重要な地域について地下構造の解明を図る。また、国内の物理探査調査研究活動の総括を行う。

[計画の概要]

1. 地球物理的手法による関東一東北地域の地下構造の研究
 - 1) 関東一東北地域の基盤構造に関する研究 (福島県)
 - 2) 地震探査による茨城県南部周辺地域の地下構造に関する研究 (茨城県)
2. 物理探査調査研究活動の総括

II. 3. 24 物理探査技術の研究

[方 針]

各種の物理探査法に関する計測技術、データ処理及び解析法についての基礎的研究を行い、新技術開発の基盤とする。

[計画の概要]

1. 波動データ高精度解析手法とインバージョンに関する研究
2. 電気・磁気を用いる探査法の研究
 - 1) 精密電気探査インバージョン法の研究
 - 2) 地上磁気探査による地下構造調査技術の研究

II. 3. 25 応用地球物理の研究

[方 針]

物理探査データ、岩石物性データ等の処理・解析により地殻構造の解明を図る。

[計画の概要]

1. 物理探査データに基づく地殻構造解明の研究
 - 1) 電磁法による火山地域の地下比抵抗構造の研究 (東京都)
 - 2) テクスチャによる岩質区分技術の研究
 - 3) 陸・海境界域における重力データの接合とその解析の研究 (千葉・神奈川県)
2. 中部・近畿地方基盤花崗岩類の物理的性質の研究 (富山県)

II. 3. 26 地球化学の研究

[方 針]

地球及び宇宙物質における元素及び化合物の地球化学的な基礎研究を実施し、地質諸現象の解明に役立てる。同位体比測定や地質年代の決定により、地質学上の諸問題の解決を図る。

[計画の概要]

1. 火成岩の地球化学的研究
 - 1) 西南日本島弧基盤の同位体地球化学的研究 (群馬・福岡県)
 - 2) 中性子放射化法による隕石・火成岩中の微量元素分析法の研究 (鹿児島・静岡県)
2. 堆積地球化学の研究
 - 1) 堆積岩の古環境・続成作用における化学指標成分の研究
3. 地質年代の研究
 - 1) K-Ar 年代研究 (岩手・長野・岐阜県)
 - 2) ¹⁴C 年代研究

II. 3. 27 応用地球化学の研究

[方 針]

環境評価・資源の予測と評価等の基礎となる元素及び化合物の存在量と存在形態を明らかにする応用地球化学の研究と地質試料の分析法の研究を行う。

[計画の概要]

1. 地質及び地下資源の応用地球化学的研究
 - 1) 無機地球化学的研究
 - 2) 有機地球化学的研究
 - 3) 海底堆積物の化学成分の研究
 - 4) 温泉の化学組成の研究
2. 地質試料の分析法の研究
 - 1) ICP 発光分析法の研究
 - 2) JIS 関係等標準分析法の研究

II. 3. 28 地形・測量技術の研究

[方 針]

地質・地下資源及び国土保全等の各分野の調査研究に必要な情報及び基礎試料を提供するため 地形・測量技術に関する計測研究を行う。

[計画の概要]

1. 活構造地域における地形・測量技術の研究
 - 1) 空中写真による活断層の変位の測定技術の研究 (山梨県)
 - 2) 活火山地域における地殻変動の精密測定技術の研究 (群馬・長野県)
2. 測量技術 測量新技術の導入・開発の研究
 - 1) 陶石鉱床区研究の地形測量 (石川県)
3. 地形・地質情報の処理の研究
 - 1) 地質図数値ファイルの編集手法の研究

II. 3.29 海外地質の研究

[方針]

海外地質及びエネルギー・鉱物資源に関する資料を収集 解析 編さんするとともに国際機関 各国地質調査所等との共同研究を実施する。

[計画の概要]

1. 海外地質の研究
 - 1) SEATER トランセクト
 - 2) 東アジア地質構造図 (高知県)
2. 海外地下資源の研究
 - 1) 地球物理データ・インベントリー
 - 2) 東アジアのヒートフロー
 - 3) 中国華南のレアメタル資源

II. 3.30 地質情報の研究

[方針]

地質情報に関する共通基盤的な情報処理システムの開発 ファクト・データベースの開発 及び運営環境の整備を行う。

[計画の概要]

1. 地質情報の基盤整備
2. 地質情報技術の研究

II. 3.31 地方地質の研究 (北海道支所)

[方針]

北海道地方の特質に係わる地質・地下資源及び環境地質に関連する重要課題を選択して調査研究を推進し 併せてこれらに関連する資料収集と技術指導を行い地域開発に寄与する。

[計画の概要]

1. 北海道の資源と地質の研究
 - 1) グリーンタフ地域のテクトニクスと鉱化作用の研究 (北海道)
 - 2) 北海道中央地域の希少金属資源の研究 (北海道)
 - 3) 北海道の金属資源評価の研究 (北海道)

- 4) 臨海平野における地盤地質の研究 (北海道)
- 5) 中部北海道日本海沿岸の第三系微化石層序学的研究 (北海道)

II. 3.32 地方地質の研究 (東北出張所)

[方針]

東北地方の地域特性に即した地質・地下資源の調査・研究を行うとともに これらに関する技術指導及び資料収集を実施する。

[計画の概要]

1. 東北地域の地質及び地下資源に関する研究
 - 1) 東北地域南部のゼオライト鉱床の研究 (山形県)
 - 2) 北部北上山地安家石灰岩に関する地質岩石学的研究 (岩手県)
 - 3) 東北地域南部の塩基性岩の変質に関する研究 (宮城県)

II. 3.33 地方地質の研究 (名古屋出張所)

[方針]

中部地方の地域特性に応じた重点課題を選択し 地質及び地下資源の調査研究を推進するとともに 管内の地質・地下資源に関する資料収集・技術指導を行う。

[計画の概要]

1. 中部地方の地質と窯業原料資源の研究
 - 1) 東海地方東部の第四系及び第四紀地殻変動に関する研究 (愛知県)
 - 2) 中部地方中央構造線に沿う蛇紋岩の窯業利用に関する研究 (三重・愛知県)

II. 3.34 地方地質の研究 (大阪出張所)

[方針]

近畿及び四国地方の地質の特性に応じた地質・地下資源の調査研究を行うとともに 管内の地質・地下資源に関する技術指導及び資料収集を行う。

[計画の概要]

1. 近畿地方の中生界と新生界の層序・構造及び火成活動と第四紀地殻変動の研究
 - 1) 近畿・四国地方における第三紀火成岩体の研究 (福井・兵庫県)
 - 2) 近畿・四国地方における新生代火山地質の研究 (福井県・京都府)
 - 3) 近畿・四国地方における第四紀後期の地殻変動の研究 (高知・愛媛県)
 - 4) 近畿・四国地方における中生代メランジェの研究 (和歌山・奈良県)

II. 3.35 地方地質の研究 (中国出張所)

[方針]

中国地方の地質の特性に応じた地質・地下資源の調査研究を行うとともに 管内の地質・地下資源に関する技

術指導及び資・試料の収集を行う。

〔計画の概要〕

1. 広島県周辺域の中生代火成岩・領家変成岩類・随伴鉱床の研究

- 1) 中国地方の白亜紀—古第三紀火成岩類及び随伴鉱床の地質学的・岩石学的研究（広島・岡山・兵庫・愛媛県）
- 2) 山陽帯のろう石鉱床の研究（広島県）
- 3) 中国産のクロム鉄鉱鉱床の研究（鳥取県）

II. 3. 36 地方地質の研究（九州出張所）

〔方針〕

九州地域内帯及び外帯の堆積物の生成環境と火成活動に伴う変質作用の特性解明 及び変質鉱物の資源的評価を行う。

〔計画の概要〕

1. 九州地方の地質及び陶磁器資源の研究

- 1) 九州地域の陶磁器資源の研究（長崎・熊本県）
- 2) 九州外帯堆積岩類の岩石化学的研究（熊本県）
- 3) 九州内帯中・新生代堆積層の石炭地質学的研究（熊本県）
- 4) 中部九州第四紀火砕流堆積物の研究（大分・熊本県）

最近中国で発見された新鉱床 No. 8

岸本文男（地質相談所）

XXXIV 武装警察黄金第一総隊 17の金鉱を把握

“第六次5ヶ年計画”の期間に人民武装警察隊の黄金第一総隊は、東北3省と内蒙古自治区東部の58の市・県・旗において金の調査と探査を行い、国家の審査を受けるため、地質探査報告20編を提出した。それによると上記の第一総隊は中型の金鉱床17鉱床、小型の金鉱床3鉱床を探査試験によって確認し、かなりの量の鉱量を獲得した。

彼等が内蒙古自治区の呼盟地区で発見した烏瑪—西口子砂金鉱床は鉱量が非常に大きく、この鉱区が発見・確認されてから、それが中国最大級の砂金産出地の一つになりつつある。彼等は自己の技術に依拠して、まず大型・中型の采金装置12セットを作り、その中の5セットは地方組織に提供し、25,000両の金を採取し、上級機関から示された采金目標の量を52.4%超過して達成した。

さらに第一総隊は烏拉嘎金鉱局のために、現在のところ中国最大の粗鉱処理量1,000 t/日の山金の選鉱所を建て、それに必要な選鉱工程のノウハウを提供した。現在第一期工事が終わって生産に入り、年産金量は24,000両を越え、中国の金資源の開発に積極的な貢献をしつつある。

徐志明 楊玉奎 王家華
(中国地質報 1986. 2. 12)

XXXVI 吉林省南部で初のウラン鉱床

吉林省地質産産局第四地質調査所の一地質調査隊は1985年、吉林省南部地域で広域調査中に初めてウラン鉱床を発見した。この発見は、同地域におけるウラン

鉱床についての空白を埋め、同地域の原生代前期における堆積環境の謎を解き明かす、貴重な発見である。

馬敏（中国地質報 1986. 1. 31）

XXXXII 湖北省随州県で一大型重晶石鉱床を確認

湖北省地質産産局第8地質大隊は9年間の辛苦を経て湖北省随州県において一つの大型重晶石鉱床を発見・確認した。その鉱量は1,191万t、鉱石の平均BaSO₄含有率は85%を越え、鉱床はカンブリア系下部統最下部の挟炭珪質岩系中において、その生成タイプは堆積変成一層状鉱床に属している。

呉雪琼（中国地質報 1987. 8. 28）

XXXXIII 銅陵県1鉄ゴッサン変じて金銀鉱床

安徽省銅陵県新橋の大型硫黄・鉄・金鉱床の上部には酸化帯の鉄ゴッサン（褐鉄鉱体）が発達している。冶金部の803地質隊は2年間の調査によってこの褐鉄鉱体が鉱量も十分な金・銀共生鉱床であることを把握した。その鉱体の一部は地表に露出し、一部は鉄ゴッサン下部を構成している。主要鉱体は、いずれも侵食基準面よりも上に位置する。この鉱床は採掘しやすく選鉱しやすい。この事実が発見・確定されたことによって、当初有害な挟雑物が存在するとして利用するには至らなかった褐鉄鉱体が「廃品」から「宝物」に変わった。この発見によって、冶金部地質局は地質探鉱成果2等賞を獲得した。

李信培 姜輝先（中国地質報 1987. 9. 18）